

# 令和5年度 甲府市立池田小学校 研究の概要

## 1 研究主題・副主題

### 「学び合い，高め合う，心豊かな児童の育成」

#### ～学びを深める ICT の効果的な活用～

## 2 研究主題・副主題設定の理由

### (1) 児童を取り巻く社会情勢より

中教審から示された『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』では、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」とされている。そしてこれを実現するためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが重要であると考えられている。

授業改善はこれまでも継続的に研究されてきていることであり、この研究実践により得られた成果を継承しつつ、新たに配備された ICT 環境を効果的に活用することにより、さらに児童に最適な学びを追究することが求められている。

### (2) 本校の学校経営スクールプランより

本校では、学校教育目標「学び合い，高め合う，心豊かな児童の育成」を掲げ、「いっしょけんめい考える子ども」「健康になろうとする子ども」「だれにもやさしくする子ども」を目指し、知・徳・体を一体的に育む教育活動を進めてきた。それぞれの項目の詳細なプランの中には、「令和の日本型学校教育」において目指されている「個に応じたきめ細かな指導・支援の充実」「ICT機器の活用」等も明記されており、本校では継続的にこれらに取り組んできていると言える。

さらに昨年度までの三年間では、学習評価について継続的に研究を進め、児童の学習状況を適切に評価するために大切なことを確認してきた。中でも、学習前後（単位時間での学習前後，単元での学習前後等，柔軟に捉えている）の個の変容を見取ること，見取る手立てとして記述による学習履歴を蓄積すること等が大切ではないか，ということが確認された。これは前述の「個に応じたきめ細かな指導・支援の充実」に関わる内容であり，今後はこれに「ICT機器の活用」を意図的に加味することによって，これまで蓄積してきた本校の研究成果をさらに充実させ，より一層，個に応じた最適な学びや協働的な学びが充実していくことが期待される。

また，スクールプランには「心と体の健康，望ましい食習慣や生活習慣づくり」も明記されており，運動の日常化や食教育，危機回避能力の育成等，発達段階に応じて必要な知識や経験が蓄積されるよう取り組んできた。しかし近年，ICT環境が整い，使用頻度も高まっていることから，不適切活用（長時間使用，姿勢の乱れ等）による心身の不調を訴える事例が全国的に報告されている。心身の健康に関する新たな視点として，児童の健康面や生活面への影響を十分配慮した ICT の活用が推進できるよう，保健指導についても並行して研究を進めたいと考える。

### 3 研究目標

ICTの利用について研修や授業実践を行う中で、成果と課題を明らかにし、個別最適な学びや協働的な学びを充実させる効果的な活用方法を追究し、学び合い、高め合う心豊かな児童を育成する。

※研究を進めるにあたり、本校では「個別最適な学び」「協働的な学び」を以下のように捉える。

「個別最適な学び」：すべての児童に基礎的な学力を習得させるために、一人一人の実態にあった指導を検討し、実施すること。

「協働的な学び」：児童のそれぞれのもつ個性や資質を生かし、児童同士、または地域の人々等、多様な他者と協働しながらより良い学びにつなげること。

### 4 研究内容・方法

(1) ICTを効果的に活用した児童の学びを深める授業づくり

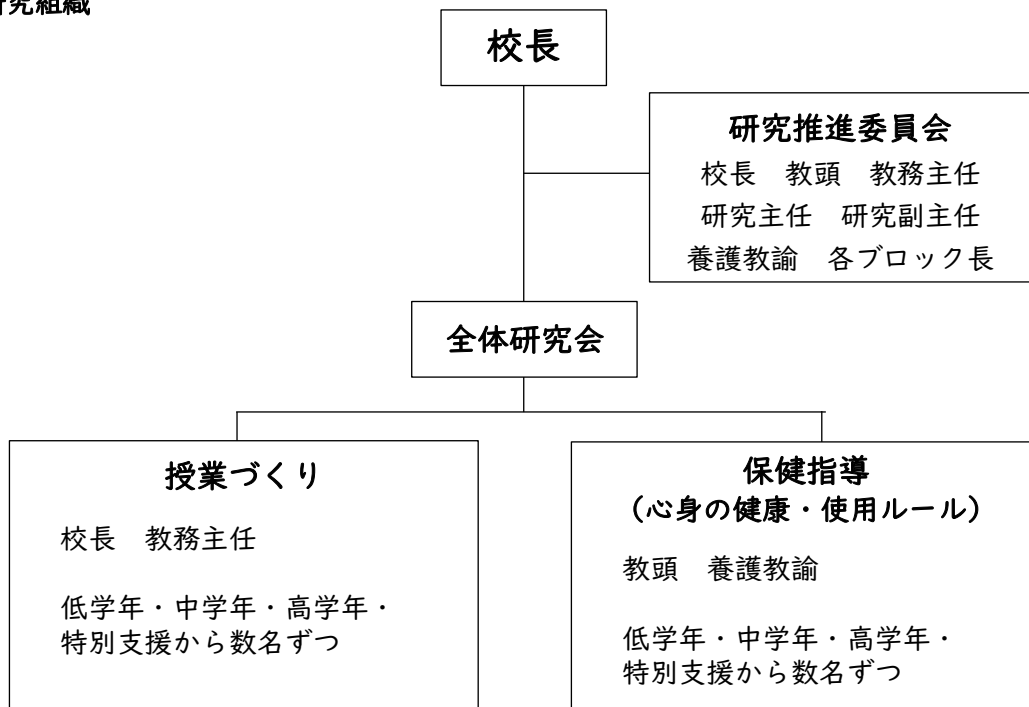
- ・ICTを活用することによって学びが深まると考えられる学習内容を吟味し、授業研究を行うことで、成果と課題を探る。

(2) GIGA スクール構想推進のための学習会

(3) ICT機器の活用に関わる健康教育についての学習会

- ・講師を招聘し、ICT機器の不適切活用（長時間使用、画面からの距離が近い等）により、心身に不調を訴える事例が報告されていることから、健康に配慮したICT機器の活用について学ぶ。
- ・本校の児童の実態に合った保健指導について検討し、実施する。

### 5 研究組織



## 6 研究計画 (省略)

## 7 各ブロックにおける研究の流れ

### (1) 授業づくりブロック

- ①児童の学びを深めるICTの効果的な活用について考える。
  - ・ICTを活用した実践を共有することに加え、クロームブックの実践的な活用に関する学習会をもち、本校の児童の実態に合った活用方法について検討する。
- ②研究授業の学年・教科・単元(題材)を決定し、「評価規準」「指導と評価の計画」「評価方法」について検討する。
  - ・昨年度までの、児童の学習状況を適切に見取り評価する研究を生かし、単元(題材)の目標、評価規準、指導と評価の計画を作成する。
  - ・指導と評価の計画の中に、ICTの活用場面を記載する。
- ③検討した指導案を基に授業を行う。
  - ・授業者以外の教師も実践を行う。

※ICTを活用した場合、使用したファイルは『共有ドライブ→池小フォルダ→06 教材等』に随時保存してください。(他のフォルダ等に保存されると次年度以降共有できません)
- ④授業後に研究会を行い、成果と課題について検討する。

### (2) 保健指導ブロック

- ①現在実施されている学習活動等(委員会活動、毎月の生活目標、たてわり活動等)を見直し、健康増進に関わる取り組みを抽出し、これらの活動が体系的に行えるよう検討する。
- ②養護教諭を中心に、ICT機器の不適切活用に関わる保健指導の内容を検討し、各クラスで指導する内容、掲示物等を作成する。
- ③モデルとなる保健指導の授業を行い、参観、もしくは動画で記録し全職員に共有、各クラスで実施する。

## 8 参考文献・資料

- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～中央教育審議会(令和3年1月26日)
- ・令和4年度山梨県教育委員会教育課程説明会資料 小・中総則
- ・学校教育の情報化の推進に関する法律(第3条:基本理念)